



鯉のぼり

会長 溝口 隆一 幹事 福田 昭一

- 例会場 ホテルマロウド筑波
TEL.029-822-3000
- 例会日時 火曜日 12:30～13:30
- 事務局 土浦市真鍋1-2-6 金塚ビル3F
TEL 029-823-4524 FAX 029-869-9006
- ホームページ <http://tsuchiura-src.jp>
- Eメール info@tsuchiura-src.jp

2017～2018年度
国際ロータリーテーマ



ロータリー：
変化をもたらす

2018年 5月29日 43号
2018年 5月22日 第3例会報告



地区HP



地区行事予定

- | | | | |
|--------------------------|----------|--------------------------|-----------------|
| 1. 点 鐘 | 溝口 会長 | 7. 会員卓話 | |
| 2. ロータリーソング斉唱
(奉仕の理想) | | 地区少年奉仕総括委員長 | 稲本 会員 |
| 3. 幹事報告 | 福田 幹事 | 8. 点 鐘 | 溝口 会長 |
| 4. 委員会報告 | 会員増強委員会 | 9. ロータリーソング斉唱
(我等の生業) | |
| 5. ニコニコボックス発表 | 高野 S A A | | |
| 6. 出席状況報告 | 出席委員会 | | (司会進行 高野 S A A) |

本日のプログラム

2018-19年度クラブ協議会です。各委員会毎の話し合いになります。

次週のプログラム

6月5日(火)は、創立45周年記念式典キャラバンのため大甲扶輪社より3名の方々をお迎えしての移動例会となります。18時からよし町で行います。

出席状況

会員数	出席数	出席免除	出席率	全員出席卓	3名以上欠席卓	メイクアップ	出席訂正率
名	名	名	%	卓	卓	名	%
93	72	8	78.26	1・2	7・8・9	14	93.48

【委員会報告】

ローターアクト委員会

片岡 哲 委員長

アクト拡大の件でご報告します。先週から土浦市川口のオール医療福祉専門学校にてアクト拡大についての依頼をしており、6月7日にアクト入会説明会をさせて頂く運びとなりました。今後、つくば国際大学・筑波研究学園専門学校へもアプローチをかけて同様の活動を目指していきます。

環境保全委員会

杉田 一男 委員長

6月3日(日)りんりんロード清掃を行います。午前10時に延増興産さんの第5駐車場集合です。来週の例会で締め切ります。参加の程、よろしくお願い致します。

地区大会のお知らせ

高野 和彦 副幹事

5月27日(日)ノバホールで開催されます。バスご利用の方は午前8時さくらガーデン第2駐車場集合となります。現地に直接行く方は、当日映画の撮影のため交通規制があるようですのでご注意ください。

別件で、本日例会後2018-19年度事前打合せ会議を行います。次年度の理事・役員の方は参加をお願いします。

【会員卓話】

青少年交換について

第2820地区 青少年奉仕総括委員長

稲本 修一 会員



いつも地区の青少年奉仕に対してご理解とご協力を賜りありがとうございます。白戸年度の次期会長の勉強会でありますPETSの一週間前に、急遽青少年奉仕総括委員長を仰せつかって早2年が経ちました。地区委員は3年やるものだそうで、もう1年奉仕させていただくことになっています。

3年目は、少しは楽になれるかなと思っていましたが、豈図らんや、大変な1年になりそうです。

本題に入る前に地区が抱えている問題について申し上げたいと思います。

1つは、ローターアクトの会員減少問題です。今年は地区内9クラブで50人くらいでしたが、次年度は大幅な減少が予測されています。つくば学園RACは全員卒会で会員は0名です。我々の土浦南RACも1名となってしまいますが、青少年奉仕委員会の片岡哲君の尽力で3、4名入会してくれそうですが、深刻な事態が続いています。先日は福田幹事と何名かのローターアクト関係の委員がオール情報・医療専門学校に行つて勧誘をしてくださっています。つくば学園は、まだ具体的ではないかも知れませんが、水戸に茨城大学RACがありますが、同じように筑波大学に新たにクラブを創立するような動きがあるようです。

土浦南もアクトの火を絶やさないために、皆様のお子さん、お孫さん、従業員で30歳未満の方をぜひアクトに入会させてください。健全な仲間との交流を通して社会性や協調性、人間性

の向上、またリーダーシップの向上に間違いなく繋がります。

3月にローターアクト全国研修会がオール茨城RACのメンバーによる実行委員会を組織して、綿密は会議を重ねて、2日間の大会を見事にやっつてのけました。弱冠のロータリアンの助言を受けながらも主体的に細部に至るまでスケジュールを組み立て、全員で勝ち得た成功ではないかと思います。

そんな彼らの成長を目の当たりに見ているので、なんとかひとりでも多くの若者がローターアクトを体験してもらいたいと願います。

インターアクトクラブも、現在は地区内に5つありますが、地区としてはもうあと2つくらいは出来ても良いのかなと思います。水戸の私立高校で設立に前向きな学校があるのですが、スポンサーになるロータリークラブが無いという残念な事態が起きています。

また、次年度の研修旅行は台湾に決めましたが、対象の学年の部員が少ないとの理由で、不参加の学校があったり、なかなか足並みが揃わない状態でやきもきしています。

本題の青少年交換の話に移りますが、これまた、色々問題が起りまして、実は取手一校の女子生徒が交換学生に応募しまして、見事試験にはパスしたのですが、彼女を送り出すスポンサークラブは取手ロータリークラブでしたが、交換学生のシステムは、派遣したら受入れが自動的に伴うのですが、取手クラブでは、会員全員がホームステイを受け入れることは困難だということを、私の方に連絡してきました。制度を良く理解しないで派遣を申請してしまったようですが、もう既に派遣学生に合格を出してしまったのを、撤回するというのは、その学生さんに失礼な話ですし、ロータリーとしても恥ずかしいことですので、やむを得ず、溝口会長にご相談しまして、理事会の皆様のご承認を得て、土浦南ロータリーにスポンサークラブになっていたことになった次第です。

土浦南ロータリーは1995年ですから今から23年前に土浦日大高校の女子生徒がブラジルに行き、ブラジルからマリオ君が来て塚原昭二さんがカウンセラーで1年間お世話をしたことがあります。

今回土浦南でお世話をするのは、ソフィアさんという17歳、メキシコ国籍のカナダ人です。住まいはカナダのケベック州です。フランス語を公用語にしているエリアですが、彼女はスペイン語、英語、フランス語がしゃべれるようです。

日本に行ってあたらしい言語に挑戦するのを楽しみにしているようです。

約11ヶ月すべてホームステイで取手一高に通います。

学生に人生を変えるような貴重な体験を味わってもらいたい。そんな思いをかたちに出来るのが「ロータリー青少年交換」です。学生達が新しい文化や習慣に触れることで、グローバルな理解が芽生え、平和の土台が築かれます。さらにその恩恵は、学生達を世話するロータリークラブやホストファミリーにも及びます。今月のロータリーの友には、交換学生のホストファミリーの体験談がいくつか載っていますが、みなさん交換学生の意義を良く理解して楽しく受け入れている様子が見て取れます。

とりあえず最初のホームステイ先は、現在タイの学生を預かっている、ひたちの牛久駅近くにお住まいの関野さんという竜ヶ崎RCの幹事さんが受入を快諾していただきました。ホームステイは3家庭から4家庭が理想ですので、ぜひ皆様のご家庭でも受入を検討していただけますようお願いいたします。ご承知のようにロータリーは国際的な組織です。グローバルな視点で青少年の育成のために奉仕することは大変意義深いことです。

あまり構えずに、フランクな気持ちで受け入れていただけたらと思いますので、私かソフィアのカウンセラーを務めてくださいます福田幹事までお申し出いただければ幸いです。

また、留学期間中、できるだけ沢山の思い出を作つてあげるため、会員の皆様でキャンプや小旅行、BBQパーティなどをやる時には、どうぞソフィアを誘つてあげてください。

青少年奉仕で一番気を付けなければならないのは、ハラスメント行為です。

セクハラ、パワハラ、特にセクハラには充分過ぎるほど気を付けなければなりません。

自分がこれくらいのこと、と思っても相手がハラスメントと思えばハラスメントになります。例えば、酒宴の席でお酌をさせてはいけません。

また、そんな席で写真を撮るときに肩に手を回したりすることもアウトです。

今年、アメリカで起きたことですが、ホストファミリー宅のバスルームに隠しカメラが設置してあったことが発覚しました。こんなことは言語道断です。

留学生に深い傷を負わせるだけでなく、ロータリーとしての品格を貶める行為であります。

しかし、万が一のために、日本では1億円の保険に入っています。幸い日本では裁判沙汰になった事例はありませんが、今後も無いように危機管理を徹底しなければなりません。

1年間の留学生活は、彼らにとって貴重な体験となります。今、フランスに行っている留学生は、最初のホストファミリーの住環境が劣悪で、非常に苦労したようですが、その後、別のファミリー宅に移ってからは快適な日々を送っているようです。月次報告で辛い時期を乗り越えたことも貴重な体験であったと振り返っています。

そんな1年を経験すると一回りも二周りも成長して日本に戻ってきます。

毎年、地区の青少年奉仕研究会の時に体験を発表してもらいますが、日本からの親善大使としての役割も自覚を持って実に堂々とスピーチします。

そんな姿を見ていると、青少年交換の意義深さをあらためて感じます。

23年ぶりの交換学生のスポンサークラブです。どうぞ積極的に前向きに皆様で応援していただければ幸いです。なにとぞよろしくお願い申し上げます。